

製品名: エンドグリンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10463**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	ENG END
別名	Endoglin (CD antigen CD105)
遺伝子 ID	2022.0
SwissProt ID	P17813
免疫原	アミノ酸配列範囲: 370~430 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

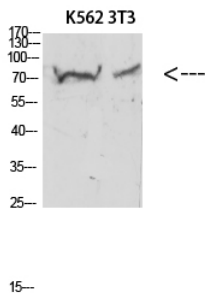
この遺伝子は、血管内皮の主要な糖タンパク質であるホモ二量体膜貫通タンパク質をコードしています。このタンパク質は、形質転換成長因子β受容体複合体の構成要素であり、β1 および β3 ペプチドに高い親和性で結合します。この遺伝子の変異は、オスラー・

レンデュ・ウェーバー症候群 1 としても知られる、常染色体優性多臓器性血管異形成症である遺伝性出血性毛細血管拡張症を引き起こします。この遺伝子は、妊娠中毒症や数種類の癌にも関与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2013 年 5 月]、疾患：ENG の欠陥が遺伝性出血性毛細血管拡張症 1 型 (HHT1) の原因である[MIM:187300, 108010]。オスラー・レンデュ・ウェーバー症候群 1 (ORW1) としても知られる。HHT1 は常染色体優性遺伝性の多臓器性血管異形成症であり、反復性鼻出血、粘膜皮膚毛細血管拡張症、消化管出血、肺動静脈奇形 (PAVM)、脳動静脈奇形 (CAVM)、肝動静脈奇形を特徴とする。これらはすべて、基礎にある血管異形成症の二次的な症状である。小児における HHT1 の初発症状は一般的に鼻血であるが、重要な臨床的異質性が存在する。機能：血管内皮の主要な糖タンパク質。内皮細胞がインテグリンや他の RGD 受容体に結合する際に重要な役割を果たす可能性がある。サブユニット：形質転換成長因子 β のシグナル伝達受容体である TGF- β 受容体 I および/または II とヘテロ多量体複合体を形成するホモ二量体。TGF- β 1 および 3 には効率的に結合しますが、TGF- β 2 にはそれほど効率的に結合しません。TCTEX1D4 と相互作用します。組織特異性：エンドグリンは骨髄を除くすべての組織の内皮細胞に限定されます。、

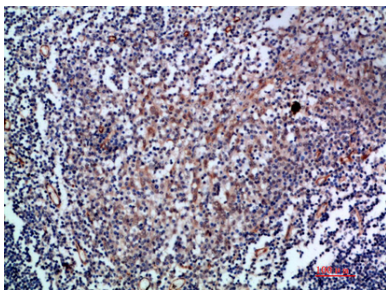
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

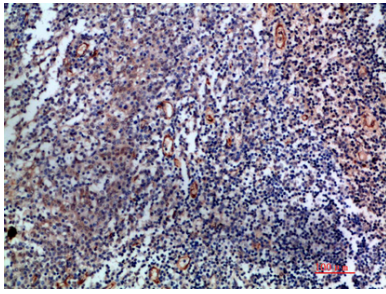
画像データ



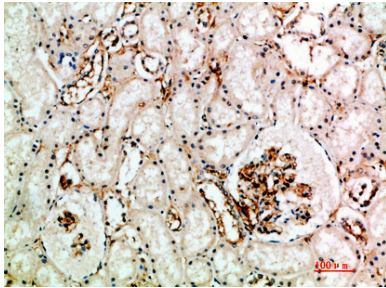
3T3 KB K562 Hela 293T ライセートのウェスタンブロット分析。抗体は 500 倍希釈。二次抗体は 1:20000 倍希釈。



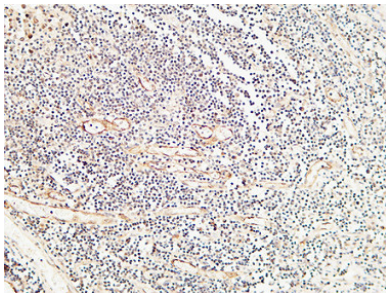
パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



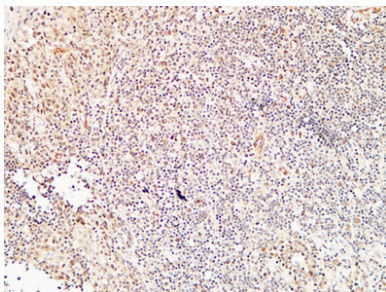
パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



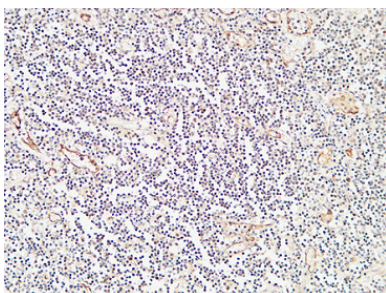
パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



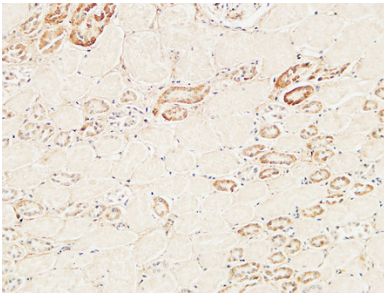
パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



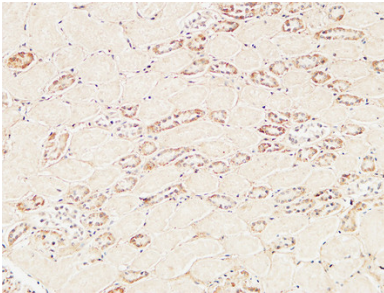
パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。